

# シンポジウム

## 〔大学図書館のミッションと機関リポジトリ〕を ～ 環日本海域からの情報発信 ～ 開催しました



平成22年2月17日(水)～18日(木)にかけて、金沢大学創基150年記念「講演・シンポジウム」シリーズ(特別回)／平成21年度金沢大学附属図書館シンポジウム／DRF-KanNihonkai「大学図書館のミッションと機関リポジトリ ～環日本海域からの情報発信～」と題したシンポジウムを、自然科学系図書館AVホールで開催しました。大雪であったにもかかわらず、延べ71名の参加者がありました。図書館サービスの一環として拡大しつつある機関リポジトリを利用することで、場所にとらわれない情報発信ができていく時代になっています。このテーマに関連した3つの講演と9つの事例報告がありました。

1日目の3つの講演内容を簡単に紹介します。

「研究者の情報入手に関する行動を分析すると、学術環境の変化に伴い変化している。図書館の役割も変化していくはず」(三重大学・小山憲司氏)／「機関

リポジトリのコンテンツ・ダウンロード数を調査すると、利用されやすいデータとされにくいデータが分かってきた。今後の活動に反映させていかないと、せっかく登録しても利用されない」(筑波大学・佐藤翔氏)／「学術情報は文献だけではない。公開されず埋もれている有用な非文献の学術情報もリポジトリで公開していきたい。」(金沢大学・高田良宏氏)

この後、活発なディスカッションが行なわれました。2日目には、環日本海地域の各大学の機関リポジトリ活動の事例報告がありました。当日発表されたスライドは以下のページで公開されていますので、ご覧ください。

DRFWiki:

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRF-KanNihonkai>

(情報企画係・守本 瞬)

